

例会報告 Rotary



会報・雑誌・広報
委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行高山支店 4F
- 会長 下屋勝比古
- 幹事 塚本 直人
- 会報委員長 挾土 貞吉

世界に希望を生み出そう

<会長の時間>

先週は、2回目の「オープン例会」ということで5名の方にお越しいただき、当クラブの活動報告などお話をさせていただきました。何とか新メンバーになっていただきたく引き続きご案内をさせていただきます。本日は、今年最後の例会となりました。先週も触れましたが、歳月がたつのは本当に早いものです。財団補助事業は35度を超えていたのに、今朝は氷点下の朝です。体調の管理にお気を付けて年末年始をお過ごしください。



私は昨日ロイイングの合宿を打ち上げて帰りましたが、「第75回日本ハンドボール選手権大会」のため明日朝、岩手県花巻市へ行きます。日本リーグ11チームに加え、大学推薦が2、各ブロックから11チームの24チームで優勝を争います。過去広島大会では3位に入賞したことがあります。24日は愛知県の大岡高校と1回戦を戦い、もう一つ勝てばわが娘がゴールを守るオムロンと当たる予定です。本日お越しの石田先生おられた福岡大学もハンドボールは男女ともに強豪で、我々のあと、香川銀行と対戦します。男子は、1988年ソウルオリンピック以来36年ぶりに自力でのオリンピック出場を決めました。女子もこれまで手も足も出なかった欧州にもう少しのところまで迫っています。なぜ強くなったのかは機会があるとき話しますが、わがブルズからも代表入りを狙ってほしいですし、極貧のブルズを支えていただく皆様へクワクワしてもらえよう頑張ります。

最後に、来年も皆様にとりまして素晴らしい年になりますよう「明るく楽しく元気よく」年末年始をお過ごしください。この半年お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願ひ致します。

<幹事報告>

◎高山市スポーツ少年団より

- ・令和5年度高山市スポーツ少年団大会について (御礼)

<受贈誌>

直前ガバナー (2022-2023年度地区記録誌)、岐阜いのちの電話協会(広報誌第50号)

<出席報告>

出席者数	会員数	出席率
23名	36名	67.65%

<本日のプログラム>

会報・雑誌・広報委員会

委員長 挾土 貞吉

我が委員会本年度のメイン事業は会報に「人間力を高める」と言う会員記事、掲載中です。何方様も立派な考えの元、原稿出して頂き有難うございます。今の世の中倫理も道徳もない利己主義、自分さえよければいい、政治、経済、社会です。この歪んだ社会現象は、教育にあると思えてなりません。故に私はこの担当例会の講師、選尺悩みました。我が女房とのご縁で高山にお住いの、福岡大学名誉学長、石田重盛様を知り、本日お迎えし教育者の立場から見る「人間力」如何と言うテーマで卓話お願ひ致しましたところ、お身体療養中の身でありながら心快く受諾され来て頂いています。



先生のプロフィールは、お手元で配布、見ての通り立派なお方です。平成25年秋叙勲「瑞宝中綬賞」をされ、又NHK「クローズアップ現代」に2度出演されてお見えます。私は、必ず心に残るお話が聞けるものと期待いたしています。短い時間ですので私からの趣旨説明は以上とし、石田先生早速卓話お願ひ致します。

リスクマネジメントと 保険

福岡大学名誉学長

石田 重森 様



現代は、リスク多発時代と言っても宜しいかと思ひます。自然災害で言えば地球温暖化で、ゲリラ豪雨や土砂崩れ、洪水など、それから人為的なものでは交通事故も多発しています。歩道を歩いていても、いつ高齢者の運転する車が飛び込んでくるか分からない、非常に危険な時代に入っています。企業に関連して言えば人材不足や原材料不足などで困りの企業、さらに言えばITによるサイバー攻撃による身代金要求されるなどと言った危ない社会になって来ておる中、リスクマネジメントが大事になります。

「リスク」を定義しますと、偶然の事象・事故の発生により損害を蒙る可能性・不確実性、と抽象的ですがそうなります。リスク発生後の経済的保障が必要となり、リスクマネジメントが求められます。

一口に「リスク」、通常危険と言いますが非常に大きなもの、例えば北朝鮮ロケット打ち上げですとか、自然災害が広範囲に及ぶものは国が対応しなければならぬ。そういうものは「クライシ

例会報告

ス」危機と呼んで、本来ならリスクマネジメントとクライシスマネジメントは区別されるんですが、両者を兼ねるような場合もございます。昭和61年、三井物産のマニラ支店長が誘拐され、指を切られた写真が送られて来たという事がございました。現実には、それ以前にハイネケンの社長の息子が誘拐され、耳の一部を落とされたのに倣ったもので実際には怪我はなかったのですが、この時日本はイギリスのコントロールリスク社に仲介を頼みました。そして約2億円程の身代金が払われたと言われていますが、身代金支払いの件については、同様の事件の続発を考慮し報道が控えられました。そういった事情もあり、日本では誘拐保険というのは認可されておりませんので、イギリスのロイズが支払いしましたが、誘拐保険というのは加入を口外した時点で無効となる、という非常に特殊なものとなっています。この様に、個人・企業が対応するリスクマネジメントを超えて、国・政府の対応が求められるクライシスマネジメントとなるのが、最近で言えばフィリピンで逮捕された特殊詐欺事件などが該当します。

という事で、リスクマネジメントはどのようにするかですが、まずはリスクの認識が極めて重要となります。周囲に如何なるリスクが存在するか、その発生頻度、損害の程度などを常に意識することが大切です。リスク対応策とし、大きく分けて2つ、まずリスクコントロールで、その一つ目が出来るだけリスクを回避する事です。しかし、例えば自動車事故を避けるため一切自動車に乗らない、となるとお金も時間もかかり、利益を得るチャンスを逸することにもなりますので、全てを回避することは出来ません。二つ目が防止策、予防と軽減です。例えば病気で言えば予防注射しておけば、となりますが費用も掛かります。火災にそなえ家屋を全てコンクリート化は出来ませんし、ではスプリンクラーや防火壁を備えて軽減させる、と言ってもやはり経済的な負担は大きくなります。そこで事故が起こった時、リスクが発生した時のリスクファイナンスは、保有と転嫁に分けられます。保有の場合、個人で言えば貯金をしておく、となりますし企業では自分の会社内での危険準備金、自家保険で対処したり、大きな会社ではリスク対応部門を作ったり、もっと大規模な所では、リスク対応の子会社を税金の安い海外に作る、などと言った所もあります。最後に転嫁となりますが、他者または保険へリスクを転嫁する。例えばオーストラリアから綿花を輸入するにあたって、日本の港に降ろされた時点での取引とすると、積み上げから積み下ろし、さらに途中の海難事故のリスクは取引相手のものとなります。もちろん経費としては高くなります。そして保険への転嫁。保険料を払って保険会社にリスクを転嫁する、となります。リスクの発生頻度と損害の大きさとの観点で言いますと、リスクの発生頻度が高くしかも損害規模が大きい場合は保険加入と同時に防止・回避策を講じなければなりません。リスクの発生頻度が低くても損害が大きくなる場合には保険で対応するのが最も効率的で、防止策を講じるのは不経済、となります。逆にリスク発生頻度は高いけれども損害規模が小さい場合には保険は不経済なので防止・保有で対応し、リスク発生頻度が低く損害規模も小さいのであれば保有で対応する、となります。

保険の歴史についてお話しします。保険は12~13世紀、日本では鎌倉時代になりますが、地中海貿易の盛んなヨーロッパ、世界史的には重商主義時代と呼びますが、その頃冒険商人・投機的商人がおりまして、お金がないけれど冒険したいと考えた時どうするかと言いますと、金融業者に頼んでお金を借りるわけです。資金調達と同時に危険転嫁の役割として、無事に貿易が終わって戻って来たら倍にして返す、その変わり途中で海難事故に遭ったら返済しない、

という「冒険貸借」の仕組みがありました。そして商人の資金蓄積が進み資金調達の必要性がなくなり、危険転嫁だけが必要となってきた事が海上保険の始まりとなりました。最古の海上保険証券はイタリア・ジェノバの公証役場で発見されていますが1348年のものとされています。日本にもこれに似た制度がありまして南蛮貿易の頃の「抛銀」証文が博多や堺で見つかっています。

時代が下がりまして15~16世紀のヨーロッパで、イタリア、スペインなどの南部から北部へ民族移動が起こりました。イタリアのロンバート人もイギリスへ移り住み、個人的な金融取引・海上保険取引も移動しました。1660年ごろのテムズ川河畔、エドワード・ロイドのコーヒーショップで海運業者・貿易業者・金融業者が商談し、個人間での海上保険取引が大いに発展しました。やがて1769年にはロイドに集まった個人保険引受業者が組合を結成し、1871年にロイズ法が制定され特権が認められました。今日でも海上保険、損害保険の中心地で最終の再保険者であり、東京海上も再保険のため保険料率や約款など、ロイズに従っています。なおあくまでも個人保険の扱いでしたが、アメリカのアスベスト訴訟の規模が大きく、それ以来法人もメンバーとして認められる様になっています。再保険の例を挙げますと昭和43年の3億円強奪事件。日本信託銀行が当時日本で第5位の日本火災に、東芝府中工場のボーナスの現金輸送保険を付けました。これは契約の際の特約で、具体的な輸送日時は電話連絡でO.K.とされているものでしたが、その電話から1時間程で3億円が強奪され、保険金が支払われる事となりました。保険料はいくらだったか。保険金額1万円につき55銭。つまり3億円で16,500円弱。この3億円事件により、日本の現金輸送は危険だ、という事で、以降保険料がグーンと上がった、と言われていますが、普通だったら保険会社は破産です。しかし日本火災は元請け会社で800万しか担保していない。東京海上・安田火災、ニューヨークからロンドン、最後はロイズ。16,500円程の保険料も全部付けている訳ですが、危険を分散して全部再保険に出している、再保険システムがあるからこそ大きな保険金を支払う事が出来るようになっており、保険というものが発達してきたと言えます。

最後に各種の保険についてお話しします。火災保険は1666年、王室御用達のパン屋から出火し5日間燃え続けまして、ロンドンの街の2/3が焼け落ちてしまった事から創設されました。この大火から先程お話ししました防止策として、木造家屋からレンガ・石造りの街づくりが進められ、転嫁策としての火災保険はニコラス・パーモンという医者が1680年頃から始めました。ロンドン大火記念タワーというのが今でも立っていて高さは61.5mですが、ある方向に倒しますとそれが火元の場所となっています。

続きまして生命保険、こちらの発祥経緯はひどいものです。自分の船や積み荷に保険をかける事から始まった海上保険ですが、その一方で、船が沈没せず、海賊に襲われず、無事に帰港すれば一攫千金の大儲けができることから、自分のものでない他人の船に保険をかける人たちが現れました。さらには他人の命に賭けるという事となり、1774年に賭博禁止法の制定と共に、生命保険の賭博的な利用が禁止されるに至りました。

最後に自動車保険についてです。産業革命後に自動車産業が興ってきますが、当時イギリスは馬車の国ですから、その状況で自動車が走るのには危ない。だから自動車を走らせる場合、前方55mのところ人間が立って、これから自動車が走ると警告する。市街地は時速3.2キロ以内、郊外はその倍の6.4kmで走れ、という赤旗令が1865年に施行されました。そのためイギリスは自動車の普及でドイツ、フランスに遅れを取ってしまい、1896年に廃止されまし

例会報告

た。その廃止の記念にロンドンからブライトンまでカーレースをする事となり、危ないからといってそこで初めて自動車保険が誕生しました。今サッカーの三苦選手が所属するサッカーチームがブライトンです。現在でも11月の第一日曜日には、家族もみんなオールドファッションで乗車してクラシックカーのレースが行われています。いい街です。

最後にもう一つだけいいですか、海上保険の話。昭和26年、食糧難の時代で丸紅がアメリカから大量の8,600tもの大豆を輸入したんですが、途中で大豆の値段が大暴落してしまって、そのまま着いたらもう大損害だった訳です。しかし、幸か不幸か千葉県御宿沖で座礁してしまい、何とか移送しなければとエンジンをフル回転させたら火災が起きた。必死に水をかけたら大豆が膨らんで、その重みで沈没してしまった。そんな経緯で5億4千万円程の保険金が支払われて、この時丸紅は海では助かった訳ですが、何十年後かに田中角栄のロッキード事件で空から落ちた、なんて言われております。日本ではこの千葉御宿沖、世界ではアメリカフロリダのバミュエラ海域が海難事故の多発地域として知られております。

時間となってしまいました。ご清聴ありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●下屋 勝比古さん、塚本 直人さん

ようやく飛騨の冬景色となりました。本日は年内の最終例会です。皆様1年間お世話になりました。本日のゲストは福岡大学名誉学長の石田重森様です。卓話を楽しみにしています。皆様、どうぞよいお年をお迎え下さい。

●狹土 貞吉さん

本日の担当例会は、会報・雑誌・広報委員会です。人間力を高めるというテーマで福岡大学名誉学長であらせられます石田重森先生をお迎えしています。皆さんプロフィールに目を通し、後程の卓話楽しみに待っていて下さい。なお質疑もして下さい。時間延長5分ほどお許し願います。

●阪下 六代さん、米澤 久二さん、田中 武さん、門前 庄次郎さん、垣内 秀文さん、大村 貴之さん、田中 晶洋さん、杉山 和宏さん、中島 一成さん、堀 幸一郎さん、佐藤 貴史さん

ロータリーの上半期も終わろうとしています。本年も会員の皆様、そして事務局の中澤さんには何かとお世話になりました。厚く感謝を申し上げます。また、下屋・塚本丸の大航海も見事なものでした。下半期もますますご尽力、奮闘されるようお祈りいたします。てきましたが、来年はさらにパワーアップしたいものです。

人間力を高める

第17回

「実体験」

杉山 和宏

人間力不足の私は、何を書いたらよいか迷った挙句、GPT先生に相談することにしました。「人間力を高めるにはどうしたらいい？」すると、1分ほどで回答が出来上がりました。

「人間力を高めるには、様々な方法がありますが、ここでは3つのポイントを・・・」

瞬時に膨大な資料を検索して情報収集し、要点をまとめて分かりやすい文章を作成する。この能力は私ごときが敵うものではありません。細かい質問を加えると、より具体的な回答が返ってきます。学生時代の私なら試験やレポートで頼り切っていたことでしょう。

しかし、半世紀以上経った私には、教科書的にキレイすぎて嘘くさく感じてしまいます。「そうは言っても、思い通りにならないですよ」と逆らってもみず。的確な指摘を素直に受け取らず、言い訳をして自分を正当化してみる。これが人間力の無さなのでしょうか。

高性能なGPT先生にできないこと。それは「実体験」でしょう。その点は私の方が上だと自信を持って言えます。苦労した結果うまくできたこと。結局諦めてしまったこと。特に失敗した実体験はたくさんあります。忘れたくても忘れられないものばかりです。どれほど多くの人に迷惑をかけてきたことかと恥ずかしくなります。そして、どれほど多くの人に助けられてきたことか。そんな方々に恩返しをできていないことも失敗だと思っています。そんな実体験を踏まえ、次の行動を変えていくことこそ人間にしかできないと思います。

ロータリーをはじめとする様々な組織や場面で役割を受けることが増え、そのたびに過去の実体験からかなり尻込みしてしまいます。ですが、少しでも社会や地域のため、自分の成長のためできる限り取り組んでいきたいと考えています。

GPT先生も言っています。「人間力は一朝一夕で身に付くものではなく、継続的な努力が必要です。自分の理想や目標を明確にし、自分らしく生きることが人間力を高めることにつながります。」ごもっともです。AI恐るべし。

